

東陵小学校 GIGA 校内研修実践報告

令和3年9月21日

小松市立東陵小学校

校内推進リーダー 堀 大誠

1. 目標

「令和3年度末にめざすICTを活用した学びの姿」

- ・全教員がカメラ機能やファイル共有機能を利用し、意見を集約したり、全体に広げたりすることで対話的な学びを支援することができる。
- ・すべての児童がタイピングの練習を行い、上達する。
- ・全教員が「児童が1人1台端末を活用して学ぶ授業」を行うことができる。

2. 目標達成のために実施した「校内研修」及び「共通実践」

本校では目標達成に向け、以下の校内研修と共通実践を行っている。

① 校内研修

本校では毎月の職員会議後や研究全体会の機会を利用して月一回の校内実践交流会を行っている。交流会では、それぞれのクラスや授業担当教員がひと月の実践を交流し合い、今後の授業での活用場面にについて話し合う場を設けた。また、実践したことをエクセルファイルに記録し、実践記録を作成した。(別ページに掲載)

また GIGA スクール構想実践推進校に実際に赴き、推進校の研修会や研究授業に参加した。そこで得た実践例や資料等を本校での研修会でも紹介した。

② 共通実践

共通実践として本校では大きく3つのことを共通理解し、進めている。

(A)タイピング練習

全校毎朝の朝学習タイムの15分間をタイピング練習に設定した。1学期はほとんど毎日実施し、2学期は曜日を決めて週3回程度実施している。

タイピング練習には『Benesse タイピング教材』『寿司打』を使用。



Benesse タイピング教材はキーボードと、どの指で押すとよいかというガイドがついているため低学年にもわかりやすく、使いやすい。



「寿司打」は流れてくるお寿司に書かれたローマ字の単語・文を打つのでゲーム性もあり楽しく意欲的にできる。しかし、速度がある程度あるので中・高学年向け。

(B) 投影による資料の提示

授業時や説明等で資料の説明を行うときやノート指導などに投影機としてタブレット端末を使用している。各教室に投影用の机を設置し、どのクラスも投影用机、テレビの位置を共通にした。



(C) 「図工」作品紹介・「国語」書く活動交流

図工の授業で作成した作品をタブレット端末で撮影し、発表ノートにはり付け作品カードを作った。このことにより作品を家庭へ持って帰った後でも、いつでも、また学年が変わり振り返ることができる。

例

～光サンドイッチ～		～光サンドイッチ～	
作品名	名前	カラフルフィッシュ	
写真	くふうしたところ 見てほしいポイント		くふうしたところは、魚の体がカラフルになるように色紙をこまかくたくさんちぎっておいたところです。

国語の授業の書く活動で書いた文章を交流するときにアプリケーション『みんなの作品』を使用し、グループでアドバイス、感想交流、推敲を行う場面で使用することを共通理解している。(4. 校内で有効だった実践事例で詳しく説明)

なお、タブレット端末をいつでもすぐに授業等で使えるようにするために引き出しの右側にタブレット端末、左側に教科書などを入れるように全クラスで統一した。



3. 取り組みしてきた成果と課題

成果

(A) タイピング練習を毎朝行ったことで、全体的にタイピング速度が上がった。Benesse タイピング教材では4月から9月で打てる量が2倍近くに増える(4年生)など記録が伸びたことから、タイピング速度も上がったといえる。また、タイピング練習のおかげで、ローマ字の習熟もよくなった。

(B) 投影による資料の提示により指示が通りやすくなった。特に低学年では、聞くだけよりも大型モニターで実際に見ることで理解しやすくなった。またノート指導にも役立っている。

課題

タブレットを授業時間に使用すると、そこに時間がかかってしまい、タイムマネジメントや、学習内容が授業時間内に終わらないなどの課題がある。また、小松市はICTサポーターが各校に配置されていないので、授業実践をしようと思っても、操作内容等を教員が一から摸索しなくてはいけないので、準備に時間がかかったり、なかなか容易に取り組みなかつたりする場合があります。また、教員間でもよく使用している教員とそうでない教員で差が出ている。

4. 校内で有効だった実践事例

実践例として有効だったものは、国語の書く活動の交流場面での活用である。

教科： 国語

学年： 4年

単元： 『くわしく読んで考えが変わったところを中心に感想をまとめて交流しよう』
(C読むこと)

教材名： 「一つの花」

本時の

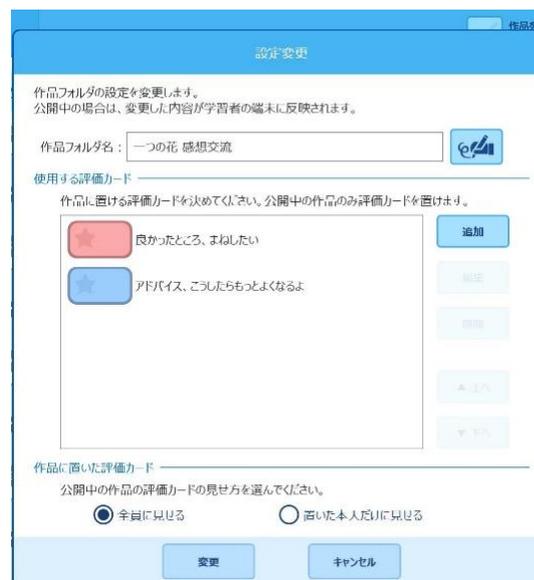
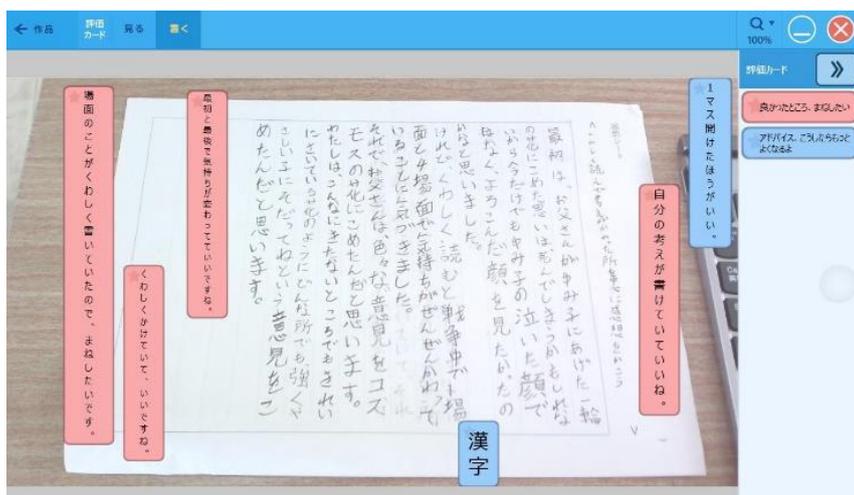
ねらい： 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思考力・判断力・表現力等C(1)オ)

活用場面： 考えたことを表現・共有する場面

学習活動： 表

次	時間	学習活動
第1次	1	・初発の感想を書く ・学習計画を立てる
	2	・物語の設定を確かめ、内容を大まかにとらえる
第2次	3	内容を詳しく読む
	4	・登場人物の気持ちに着目して読む
	5	・場面の様子の変化に着目して読む ・特別な言葉に着目して読む
	6	詳しく読んで考えが変わったところを中心に感想を書く
	7	・最初に読んで感じたこと、わからなかったこと ・詳しく読んで感じたこと、変化したこと (どうして変わったか、だれの考えを聞いて変わったか) ・「詳しく読んだことで〇〇の部分が良くわかった」 など
第3次	8	書いた文章を交流する【タブレット使用】 ・自分の感想文を写真で撮り、発表ノートに貼り付ける ・事前に決めておいたグループ番号のグループでグループを組み(グループワーク機能)、アドバイスを付箋に書き込む(アプリ：みんなの作品) ★みんなの作品では赤：よかったところ、青：アドバイスというように色別でアドバイスを送る。 ★グループは教師の方で事前にグループわけを行い、深まりのあるグループ活動となるように指定する。 ・よさや感想、アドバイス等をみんなの作品の付箋にて伝え合う ・全員で共有したい感想文をいくつか配布し、良さ等を見つけ合う。(配布機能)
	9	・前時に交流したことをもとにもう一度再構成し、感想を書く
	1	・友達と文章を読みあい、感想を伝え合う。
	0	・学習を振り返る

活用機能：『SKYMENUclass の発表ノート・グループワーク』 / アプリ：『みんなの作品』 を使用



効果・児童の変容等：

「一つの花」の感想文を書いた。本時では書いた感想を基に交流し、そこから推敲・再構成をさせた。効果的な交流を図るため、書いた感想文を写真で撮り、SKYMENUclass の発表ノートに貼り付けた。その後、交流を行った。SKYMENUclass のグループワーク機能を使って交流を行うと、書いた文章をグループで回してみることに比べ、手元で全員の作品が自分のペースに合わせてみるできるので見やすくスムーズに交流が進んだ。また、交流グループも、事前に教師の方でグループ分けを行っていたため、バランスの均等になるグループにしたので深まりのある交流となった。意図的にグループを組んだことで時間の短縮ができ、また、遠く離れた児童とも交流ができるので、コロナ禍の感染防止という観点からもよかったと思われる。各グループ交流の後で、共有したい児童数名の感想文を配布機能を使って全体に配布し、交流した。このことで全員が良い作品を見ることができて、再構成の際の質が高まった。友達の感想文に感想等を伝えるときには、アプリの「みんなの作品」(SKYMENU テキスト学習活動編 P77～P83 参照)を使用し、良いところは赤、アドバイスは青というように色分けをして付箋を貼ったので、視覚的にも分かりやすく、また児童も意欲的に取り組めた。タイピングが苦手な児童には実際の付箋に手書きさせた。



5. 今後の取り組み

小松市で Qubena(学習サポートドリル)が導入されたので 4 年生以上でそれを授業の適応問題や、朝学習で使用していく。また、続けてタイピング練習も行い、全学年が早く正確にタイピングできるようにし、授業内で効果的なタブレット端末を使った学習を行っていきたいと思う。今年度の目標の 3 つ目である《全教員が「児童が 1 人 1 台端末を活用して学ぶ授業」を行うことができる》がまだまだ到達できていないため校内推進を進めていきたい。

